

共に考え、生き生きと表現する児童の育成 ～6年「思いを形にする学級活動の実践」～

岩手県滝沢市立鶴飼小学校 教諭 前田 遥

1 はじめに

本校では、児童が主体的で対話的な深い学びをするために、児童の学習に向かおうとする意欲を引き出し、適切に教え導くこととバランスを取りながら児童に委ねていく授業に取り組んでいる。本年度の重点の一つにある、自分の考えを広げ深める交流活動は、学級活動でも深く関わる項目である。本学級では、6年生となった児童がさらに多様な考えの他者と交流を通して、共に思いを実現していく素晴らしさを感じたり、互いのよさを認め合ったりすることを目指している。

2 実践の概要

（１）学級活動（１）「１年生にお礼をしよう」

１年生から日頃の感謝の気持ちを込めた「修学旅行のお守り」をもらったことをきっかけに、自分達の頑張りが認められた喜びと感謝、１年生の初めての校外学習の安全を願う気持ちを伝えたいという思いから提案された議題である。

話し合いでは、「初めての校外学習の時期に合わせて渡すのだから、当日が楽しみになったり頑張ろうとやる気になったりしてほしい。」という意見から、児童の思考が相手意識へと向いた。ただのお礼ではなく、自分達がプレゼントを渡すことで、１年生に校外学習への思いを強くしてほしいという意見が提案理由に最も適切であると考え、当日の晴天を願う「てるてる坊主」に決定した。

プレゼントの製作は、学級だけでなく学年で取り組みたいとの意見が挙がり、学年全体で行うことになった。学級の活動が学年へと広がる様子や、１年生が喜ぶ姿を目にした児童は、大きな満足感を得ていた。集会活動以外にも、自分達の思いを形にする経験をした実践となった。



（２）学級活動（３）「陸上記録会のめあてを立てよう」

市内陸上競技記録会は、学年全員がそれぞれの役割で参加する。選手、マネージャー、応援団と一人一人の立場が違う中で、陸上記録会を成功させるためには、何が必要なのかをさぐった。児童は、立場は違っても、陸上記録会が終わった後に「やってよかった」と達成感を味わったり、それぞれの頑張りを認め合ったりすることが自分達の成功であると見出した。

応援団は「選手に頑張ってもらいたいという思いを大きな声と動きで表現する。」選手は、「よい記録を目指して高め合う。」「支えてくれている応援団やマネージャー、先生や家族へ感謝を込めて力を発揮する。」マネージャーは「自分で考えて動くことで選手を支える。」というように、それぞれが陸上記録会の成功を目指して意思決定をすることができた。

帰校後、教室に戻ると、応援団からは選手の頑張りを称える大きな拍手が自然と沸き起こ

り、選手からは、改めて1ヶ月にわたって支えてくれた応援団への感謝の言葉が述べられた。お互いに認め合うことでさらに強く達成感を味わうことができた取組となった。

(3) 学級活動 (1)「1学期がんばりみとめ合い集会をしよう」

1学期に委員会や行事、様々な場面で学級のみんが活躍したり、頑張ったりしていたことを認め合うことで、2学期への気持ちを高めたいという思いから提案された議題である。

話合いの中で児童がこだわったのは、「より多くの人の頑張りをみんなで認め合う活動」だった。誰かの頑張りが挙げられないようだと残念であること、終わった後に全員で嬉しい気持ちになりたいという思いを柱にして進めていった。最終的に決定した「がんばりカルタ」は、読み札に友達のがんばった姿を、取り札に一人一人の名前を書く。読まれた頑張り（読み札）に対して、当てはまる人（取り札）が何人いてもよいというものだった。多くの人の頑張りが分かりやすいこと、自分の名前の取り札を取ってもらえる嬉しさがあることが決め手となった。また、盛り上げる工夫の一つとして、読み札を国語の学習を生かした俳句・短歌形式で表現するのはどうかという意見も挙げられた。事前の準備でも、友達の頑張りを思い浮かべながらその姿を表現する面白さがあるという点に、全員が賛同した。



集会では、読まれた頑張り（読み札）に対して当てはまった人（取り札）の詳しいエピソードを伝え合うことも行われた。「みんなが活躍した1学期だったけれど、自分が知らない場面での友達の頑張りを知ることができた。」「自分が頑張ってきたことを友達が見てくれていたと分かって嬉しかった。」「自分達で新しい集会をすることができて楽しかった。これからみんなが納得して楽しめる集会をしていきたい。」というふり回りから、提案者や学級全員が大切にしていたことを実現し、今後への期待や意欲をもつことができた実践となった。



3 おわりに

(1) 成果

- ・何を目的とするのか、どのような思いをもって取り組むのかを学級全体で共通理解して進めることで、同じゴールを目指して学級にとってよりよいものを集団決定したり、なりたい自分に向けて意思決定したりしながら実践することができた。
- ・ふり回りで思いを共有することが自分達の成長を実感することにつながり、自己肯定感・自己有用感の高まりも見られた。
- ・実践や、日常生活の様々な場面で、自発的自治的な取組の姿が増えてきている。自分達の思いを形にするために考え、話し合い、課題解決していくことで、お互いを認め合いながら実現に向けて努力する力がついてきた。

(2) 課題

- ・「自分達の学級や学校は自分達が創っていくもの」という意識をさらに育てるために、係活動や委員会活動等に活動を広げていく。児童一人一人が、目的意識をもって学級以外の場でも生き生きと取り組むことを目指していきたい。